

花粉シーズンは去ってもムズムズ

「寒暖差アレルギーかも」

全国各地で連日、今年の最高気温を更新している。だが、朝はまだ涼しい。一日の寒暖の差が激しいこの時期、まるで花粉症のような症状が起きることがある。「寒暖差アレルギー」と呼ばれることもあるこの不思議な症状とは。

(小倉貞俊、中山洋子)

都内医師「昨年より2、3割増」

「スギ花粉症のピーク翌朝に、症状を起こす人が多かったこの時期になっが、多いといわれている。でも、花粉症に似た症状 この症状が特に目立つを訴える患者さんはいのは、一日の最低気温と最高気温の差が大きい春ではない場合もあるんでと秋だ。十日は、東日本の各地で今年一番の暑さを記録した。最高気温三〇度を観測した埼玉・鳩山では、最低気温は八・五度で、寒暖差は二一・五度もあった。一日の寒

10日、東日本各地では今年の最高気温を更新。まだ寒暖の差は激しく、体調管理には注意が必要だ。東京都港区のお台場海浜公園で



医学的には「血管運動性鼻炎」

原因で鼻水や鼻づまり、目が多いからか「昨年のくしゃみなどを引き起こす」という。メカニズムははっきりしないが、「鼻だ」という。の奥の毛細血管は通常、涼しいと交感神経の働きで縮み、温かいと副交感神経によって広がる。だが急激な温度変化が自律神経に過剰な影響を及ぼし、正常に作用しなくなってしまう」とされる。花粉症などのアレルギー性鼻炎に似ているが、目がかゆくなったり、充血したりはしないため、花粉症とは区別ができるという。俗に「寒暖差アレルギー」と呼ばれてはいるが、正確にはアレルギーではない。

対策はあるのか。森田医師は「寒暖の差がある空間を行き来するときは、まず、鼻を守るためにマスクをつけ、鼻を温め、膝掛けなど温度調節のできる服装を準備することが大切」とアドバイスする。血液を冷やさないようにすることも効果があるという。

前出の大場院長も「寒暖差アレルギー」という名称は医療用語ではなく、暖差の激しさは、梅雨入むしろネット用語。アレルギーの原因物質が特定できない鼻炎で、温度変化に敏感な症状が最も、風邪やあらゆる体の不調と同じような症例は昔からあった」と説明する。今年も寒暖差の激しい

院長は、こう説明する。暖差は東京・八王子で一も一六・二度となった。森田豊医師によると、この管運動性鼻炎に分類される症状は医学的には「血れ、急激な気温の変化が

今年も寒暖差の激しい意した方がよさそうだ。